

せきぞうほうきょういんとう 3. 石造宝篋印塔

■ 指定日

昭和45年3月20日

■ 種別

兵庫県指定有形文化財 建造物

■ 年代

南北朝時代

■ 所在地

朝来市和田山町岡田

■ 所有者

法宝寺



■ 内容

法宝寺庫裡前庭の西方台石上に立つ。総高1.55mの花崗岩製で、完存している。台石の上に複弁の反花をつけ、壇上積み式で各面に格狭間を入れる。ほぼ方形の軸石四面には月輪を刻み、金剛界四仏の種子を配す。現在は梵字アクが東面している（本来は北に位置する）。笠石の下を請花とし、台石の反花と相対応させているのは珍しい。笠の隅飾りには、それぞれ二弧の輪郭を巻き、内に薄肉彫りした月輪内に種子を配している。

宝篋印塔としては中型に属するが、構造手法はきわめて優れている。無銘のため造立年代は明らかでないが、その形状から、南北朝の造立と思われる。